



( 2016年11月5日、SUN-C、12時 )

2016年11月5日土曜日に、国際協力研究科において、「IDEC オープンデー2016」を開催し、約500名の方々にご来場いただきました。

IDEC で年に一度開かれるこのイベントは今年で4回目の開催となり、30ヶ国からの学生が参加しました。今年は1．ステージでのパフォーマンス、2．フード、3．伝統衣装の試着会、4．写真展示、5．国連職員による講演会、6．ワークショップ、7．IDEC カフェ（学部生等からの IDEC に対する質問に答えるコーナー）の7つのイベントを行いました。

学生が国の垣根を越えて協力し合い、そして同時に競い合った結果、今回のオープンデーがあったのではないかと考えています。例えばフードのコーナーで使ったテントは前日の準備で各国の学生による「協力」があって立てられました。そして当日、各国はそれぞれの魅力を「競う」かのように伝統料理を提供し、開始時間の12時からすぐに大変な賑わいとなり、早いところでは配布から1時間ほどで全ての食品がなくなる状況でした。

---

---

## 研究室訪問

## Laboratory Series

平和構築論研究室(片柳研究室)

Peacebuilding Laboratory (Katayanagi Laboratory)

平和共生講座 片柳 真理

Department of Peace and Coexistence  
KATAYANAGI, Mari

2014年に着任し、2015年4月に初めて博士課程前期の学生2名を迎えた研究室は、今年度10月にメンバーが10名となりました。博士課程後期2名(パキスタン、ミャンマー)、博士課程前期8名(アフガニスタン、メキシコ、中国、日本、フィリピン、ケニアが各1名、バングラデシュ2名)です。

私自身は学問分野としては国際法が専門で、研究テーマは平和構築です。現在はいくつか異なる研究課題を抱えています。具体的には、紛争中に失われた教育機会の回復(ボスニア・ヘルツェゴビナの事例)、ビジネスを通じた平和構築、セキュリティ・ガバナンス(ソマリアの事例)、アフリカの往還移民という4つです。

ゼミ生の研究テーマは幅広く、必ずしも平和構築ではありません。平和と開発、環境、ジェンダーなどとの関係や、ジェンダーと開発をテーマとしたり、日米安全保障を研究している学生もいます。どのテーマもどこかで平和の課題に繋がっていると考えて受け入れた学生たちです。

週1回のゼミでは2名が自分の論文のテーマに即した文献を紹介し、議論する方式を採っています。議論が続いて時間を超過してしまうこともよくあります。論文の報告会の前はそのリハーサルをしたり、フィールドワークを終えた学生は成果発表をしたりすることもあります。それぞれ違うテーマで研究しているわけですが、ゼミで発表される文献は全員が読んでくこと、そしてゼミの議論に参加することを規則としています。社会科学分野の大学院生として、異なる分野についても関心を持ち、自分の視点から問題提起できるように訓練することが目的です。

ゼミ生は普段から刺激しあい、また助け合っているの、いいチームワークができています。半年に1回のペースで全員参加の食事会もしています。本当は新入生歓迎会と修了生の歓送会を別にすべきところなのですが、なかなか日程が組めずに歓迎会が歓送会に吸収されてしまいます。一番最近の会はカラオケでしたが、熱唱するゼミ生の姿はゼミと違ってまた印象的でした。研究室は半年ごとにメンバーが入れ替わることとなりますが、研究室のネットワークを保ちつつそれぞれの場で活躍して行ってほしいと願っています。

IEC、IDEC、2014、A、2015、I、T、O、2016、T、P、D、P、B、(M)、A、M、C、J、P、K、B、

M、C、I、H、(B)、S、A、

T、S、US-J、I、

A、I、B、S、A、

T. ... W. ... I. ... T. ... K. ... I. ... T. ... L. ... I. ...

**Minh Tu Tran, Junyi Zhang, Makoto Chikaraishi,  
Akimasa Fujiwara, A joint analysis of residential location,  
work location and commuting mode choices in Hanoi,  
Vietnam, Journal of Transport Geography, Volume 54,  
June 2016, Pages 181-193, ISSN 0966-6923,  
<http://dx.doi.org/10.1016/j.jtrangeo.2016.06.003>.**

環境負荷の高い自動車・バイクの利用を抑制する有力な手段の一つとして、公共交通利便性の改善や都市構造の集約（例えば、職住近接）といった土地利用・交通施策が考えられます。一方、これらの施策が自動車・バイクの抑制にどの程度寄与するかを正確に評価するためには、「自己選択」の問題に注意を払う必要があります。自己選択とは、例えば、「自動車の運転が好きだから郊外に居住する」、「商店街を歩くのが好きだから都心に居住する」といった、個人自らの選好・態度によって居住地や交通手段を選択することを指します。自己選択の影響が卓越する状況下では、郊外居住者に都心と同程度の都市環境を提供しても、(もともと郊外居住者は自動車の利用を好む傾向にある場合)現在の都心居住者ほど公共交通を利用しない可能性があります。このため、単純な分析で郊外部の土地利用・交通施策効果を計測すると過大に評価してしまう恐れがあります。この問題に対し、これまでに、偏った推計を修正し、適切に施策の効果を計測するモデリング手法が多数開発さ

... ( ... ), E ...  
 ... A ...  
 ... T ...  
 ... H ...

教育文化講座 平川 幸子

Department of Educational Development &  
 Cultural and Regional Studies  
 HIRAKAWA, Yukiko

当研究室では、学校への地域参加と退学要因の二つの分野で国際レベルを目指している。

1991年に万人のための教育宣言が採択されて以降、各国と国際機関との努力によって学校の整備が進み、多くの国でほとんどの子どもが就学するようになった。その一方、就学した子どもたちの中途退学と、低学力が問題となっている。

発展途上国の現に発生している問題に積極的かつ実践的に取り組む IDEC の方針を受けて、我々の研究室では、学際的な研究方法を使って、このような問題がどうして起こっているのかを明らかにする研究に取り組んでいる。

その一つは、学校への地域参加の効果の研究である。1990年代に、世界銀行等が主導して、学校経営に住民を参加させることで教育の質を改善しようとするスクール・ベースト・マネジメント (School-Based Management : SBM) が様々な途上国で導入された。その制度は、今どう機能しているのだろうか。研究室では、2000年ごろからインドネシア、バングラデシュ、ケニア、ザンビア、マラウイなど様々な国で、同じ政府からの投入と子供たちの条件が同じだが成績が異なる学校を比較する研究を行ってきた。結果としては、住民たちは国家試験の成績に大きな関心を持ち、その改善のために財政支援をしてもよいと考えているが、学校側にその姿勢や努力がないと、住民参加は機能していなかった。

(1) T ... , K ... H ... . (2015). D ...  
 ... : T ...  
 ... M ... *Compare: A Journal of Comparative and International Education*. (26 )

二つ目は、退学の要因を、生存分析を使って統計学的に解明する研究である。これまで、途上国における小学校での中途退学は、貧しさや児童労働のためと考えられてきた。

確かに退学した児童やその親に尋ねれば、そう答えることが多い。しかし、事前に家庭の経済状況や児童労働の実態などを総合的に調査しておき、その後、退学したかを追跡すれば、どのような要因をもつ子どもが退学しやすいのかをより客観的に明らかにすることができる。その成果として、次の二つのカンボジアに関する論文を発表した。

(2) N , F, S ... , C ... H ... . (2012). R ...  
 ... *Asia Pacific Education Review*. V . 13, ... 573-581.

(3) N , F, T ... , K ... H ... . (2016). S ...  
 ... *International Journal of Educational Development*. V . 49, ... 215-224.

分析の結果、家庭の所有物で見た経済状況や労働時間は小学生低学年・高学年のどちらでも退学との関係が見られなかった。それに代わり、過年齢入学と学級内での成績が強く関係していることがわかった。調査では、親と子供のほとんどは、退学する前には高校又は大学まで進学したいと考えていることがわかった。学級担任から毎月発表される学級内の順位が低いと、高校進学は無理と考えて退学するのではないかと解釈できる。

国際社会が興味をもっている課題に応える研究に真正面に正直に取り組めば、必ず国際的に認められる論文が書ける。我々はそう信じている。

O ...  
 A ... 1990,  
 ...  
 A ... T ...  
 ... M ... E ...  
 IDEC ... O ...  
 IDEC,  
 T ...

...I...  
...T...  
...I...  
...I...

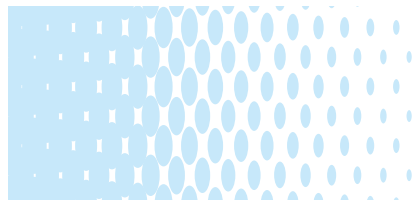
**Hongyang Cheng, Haruyuki Yamamoto and Klaus Thoeni, 'Numerical study on stress states and fabric anisotropies in soilbags using the DEM', Computers and Geotechnics (IF=1.60) 76, 170-183, 2016.**

先人の知恵である「土のう」の力学的特性を科学的に解明し、現代の地盤補強方法として蘇らせ、社会に役立てる工法開発の研究と試験施工を長年行ってきた。力学的性能を評価した「土のう」工法は、内部の土を袋材で完全に包み込む拘束効果による驚異的な耐荷力を有し、透水性が良いので劣悪な超軟弱地盤の局所圧密・強化作用を発揮し、適度なしなやかさがあるので交通振動や地震動のエネルギーを即座に消散させる等の特性がある。このような利点

のジオテキスタイル補強地盤の変形挙動の解明に多大な貢献をするのみならず、新たな地盤補強工法の開発に資するものである。

Wang, P., Wang, T., Ueda, Y., & Wang, P. (2016). The 322nd IDEC Seminar: "The Soil-Cement Composite: Construction, Optimization, and Test Results".

D. Wang, P. Wang, T. Ueda, & P. Wang. *p-q* U.S. S. T. T.



**The 322<sup>nd</sup> IDEC Seminar**

Speaker: P. Wang, P. Wang, Ueda, Y., Wang, P.

Title: The Soil-Cement Composite: Construction, Optimization, and Test Results

Date: July 15, 2016

P. Wang, T. Ueda, Y. Ueda, Wang, P. Wang, "The Soil-Cement Composite: Construction, Optimization, and Test Results"

**The 324<sup>th</sup> IDEC Seminar**

Speaker: D. F. ... A. ... P. ... H. ... P. ... I. ... H. ... C. ... U. ...

Title: LAWS (L ... A ... W ... S ...): ... D. ... L. ...

Date: July 26, 2016

D. F. ... H. ... P. ... I. ... 2015 ... "LAWS" ... I ... L ... I ... " ... " ... LAWS ... C ... C ... W ... (CCW), ... AI (A ...), ... D. F. ... LAWS ... CCW ... LAWS. (C ... : N ... K ...)

**The 325<sup>th</sup> IDEC Seminar**

Speaker: D. L. ... K. ... -K. ... , V. ... P. ... , S. ... U. ... ; ... A. ... P. ... , F. ... P. ... , S. ... U. ...

Title: P. ... E. ... S. ... P. ... R. ... B. ... H. ...

Date: July 20, 2016

D. L. ... K. ... -K. ... 20 ... S. ... B. ... H. ... 1990 . T ... T ... S. ... T. GRACE (C ... : M. K ...)

**The 326<sup>th</sup> IDEC Seminar**

Speaker: D. S. ... N. ... , P. ... , D. ... E. ... , U. ... B. ...

Title: T. ... : ...

Date: August 5, 2016

W. ... W. ... / ... UK. ... 2004Q2 . 2013Q3. O ... I ... I ... T ... (C ... : ...)

**The 327<sup>th</sup> IDEC Seminar**

Speaker: D. ... P. ... , A. ... P. ... , C. ... N. ... U. ...

Title: G. ... S. ... G. ... S. ... C. ... C. ...

Date: July 29, 2016

I ... , D. P. ... GRACE (G ... R ... C. ... E. ... ) ... C. ... S. ... N. ... C. ... P. ... , H. ... R. ... B. ... C. ... I. ... T. GRACE

Faculty of International Development and Cooperation, Hiroshima University, Graduate School for International Development and Cooperation (Coordinator: Nishida Naoki)

**The 328<sup>th</sup> IDEC Seminar**

Speaker: Prof. Dr. Ikuo Ryo, Hiroshima University, Institute for International Relations, Management, Language and Culture Studies, Hiroshima University

Title: How to Gain the Most from the 2016 G20 Summit?

Date: 14:35-16:05, July 29, 2016

International Graduate School for International Development and Cooperation, Faculty of International Development and Cooperation, Hiroshima University

Abstract: Following the G20 Summit in Hangzhou, China, the world has been looking for the next global economic growth engine. The 2016 G20 Summit in Hangzhou, China, has been a turning point in the history of international development cooperation. I will discuss the role of international development cooperation in the post-2016 G20 era.

International Graduate School for International Development and Cooperation, Faculty of International Development and Cooperation, Hiroshima University  
Abstract: Following the G20 Summit in Hangzhou, China, the world has been looking for the next global economic growth engine. The 2016 G20 Summit in Hangzhou, China, has been a turning point in the history of international development cooperation. I will discuss the role of international development cooperation in the post-2016 G20 era.

(Coordinator: Takahashi Ryo, Associate Professor, Faculty of International Development and Cooperation, Hiroshima University)

**The 329<sup>th</sup> IDEC Seminar**

Speaker: Dr. Susan N. S. Edwards, Executive Director, World Bank

Topic: SDG? What's Next? ECD/Japan's Role in the Post-2015 Era

Date: August 4, 2016

The 329<sup>th</sup> IDEC Seminar, 195 CICE Seminar Series, Hiroshima University, Faculty of International Development and Cooperation, Hiroshima University, Graduate School for International Development and Cooperation, Hiroshima University

Abstract: The 2015 G20 Summit in Hangzhou, China, has been a turning point in the history of international development cooperation. I will discuss the role of international development cooperation in the post-2016 G20 era.

World Bank, Hiroshima University, Graduate School for International Development and Cooperation (Coordinator: Kato Shinya)

**The 330<sup>th</sup> IDEC Seminar**

Speaker: Mr. Peter D. H. R. F., Director, Pacific Center Studies, University of Hawaii, Honolulu

Title: How to Gain the Most from the 2016 G20 Summit?

Date: October 21, 2016

The 330<sup>th</sup> IDEC Seminar, Pacific Center Studies, University of Hawaii, Honolulu, Hawaii. Abstract: Following the G20 Summit in Hangzhou, China, the world has been looking for the next global economic growth engine. The 2016 G20 Summit in Hangzhou, China, has been a turning point in the history of international development cooperation. I will discuss the role of international development cooperation in the post-2016 G20 era.

Abstract: Following the G20 Summit in Hangzhou, China, the world has been looking for the next global economic growth engine. The 2016 G20 Summit in Hangzhou, China, has been a turning point in the history of international development cooperation. I will discuss the role of international development cooperation in the post-2016 G20 era.

(Coordinator: Nishida Naoki)

**The 331<sup>st</sup> IDEC Seminar**

Speaker: Dr. Victor B. S. L., Senior Lecturer, Economics, National University of Victoria, Australia  
Peter, Hiroshima University

Title: What's Next? O...

Date: September 29, 2016

The 331<sup>st</sup> IDEC Seminar, Hiroshima University, Graduate School for International Development and Cooperation, Hiroshima University. Abstract: Following the G20 Summit in Hangzhou, China, the world has been looking for the next global economic growth engine. The 2016 G20 Summit in Hangzhou, China, has been a turning point in the history of international development cooperation. I will discuss the role of international development cooperation in the post-2016 G20 era.

Abstract: Following the G20 Summit in Hangzhou, China, the world has been looking for the next global economic growth engine. The 2016 G20 Summit in Hangzhou, China, has been a turning point in the history of international development cooperation. I will discuss the role of international development cooperation in the post-2016 G20 era.

US... O... HHI... T...



... US. S...  
 ... V... S...  
 ... I...  
 ... T...  
 ...  
 (C... : N... K...)

**The 332<sup>nd</sup> IDEC Seminar**

Speaker: M. R... M..., S... R..., JICA R...  
 Title: F... C... A... M...: T... R...  
 Date: S... 27, 2016  
 332 IDEC... M. R... M..., S... R..., JICA R... M. M... R...  
 "A... M...": H... 1994... R... JICA... R...  
 P... "..." ; "..." ; "..." ; R...  
 (C... : K... S...)

**The 334<sup>th</sup> IDEC Seminar**

Speaker: M. L. L. H..., A... D... O... S... M... "H... E..."  
 Title: P... V... W...: R... B... D...  
 Date: O... 28, 2016  
 T... I... P... S... TAO AKA P... M. L. L. H... D... O... S... M... "H... E..." S... V... W... V...  
 (C... : K... S...)

... US. S...  
 ... V... S...  
 ... I...  
 ... T...  
 ...  
 (C... : N... K...)

**The 335<sup>th</sup> IDEC Seminar**

Speaker: P... J... M..., B... S... E... L...  
 Title: A... : ...  
 Date: O... 17, 2016  
 T... W... C... G... T... A... E... US... I... P... W... A... A... L... EU... A...  
 (C... : N... K...)

**The 336<sup>th</sup> IDEC Seminar**

Speaker: M. M... N..., JICA R... C... A... M... S... E..., N..., K...

Title: A... S... E... P...  
 F... (C... :H... S... L...)  
 Date: N... 4, 2016  
 T... 336 IDEC... M. M...  
 N... JICA R... C... A...  
 M... S... E... N...  
 K... M. N... B...  
 I... A... (BIA) ;  
 ICT... M. N...  
 T... BIA  
 T...  
 (C... :K... S...)

**The 337<sup>th</sup> IDEC Seminar**

Speaker: P... J... L... L... D... C...  
 E... E... S... U...  
 Title: B... M... B... E... C...  
 C... H... C...  
 Date: N... 4, 2016  
 S... 150  
 F... 10  
 15  
 S...  
 I...  
 F...  
 T...  
 M...

**The 338<sup>th</sup> IDEC Seminar**

Speaker: P... K... N... T... R... I...  
 E... B... A... K... U...  
 Title: A... J...  
 UK... ?  
 Date: N... 10, 2016  
 T... TAO AKA, P...  
 N...  
 CSR  
 J... UK. T...  
 J...  
 UK,  
 I...  
 J...  
 UK... I...  
 I... I...  
 T... CSR  
 (C... :S... K...)

**The 339 IDEC Seminar**

Speaker: M. A... M... S... A... (E...),  
 J... I... C... A...  
 Title: O... C... JICA-  
 M... S... E... P... A...  
 Date: N... 28, 2016  
 T... JICA' K...  
 C-C... P... "INSET... A...  
 (A...)" JICA...  
 K... U... E... M... G... T...  
 M. A... M... S...

A ..... (B ..... E ..... ), JICA, .....  
“A ..... C ..... JICA- ..... P .....  
A .....” T ..... IDEC .....  
..... JICA’ 鏈

## 【受託事業】

研究代表者	研究課題	契約期間	契約金額	契約相手先
馬場 卓也	中国若手行政官等長期育成支援事業 平成28年度修学環境整備補助金制度	平成28年10月1日 ～平成30年9月30日	1,500,000円	一般財団法人 日本国際協力センター
馬場 卓也	平成28年度入学ミャンマー国留学生に 対する大学教育付帯講座	平成28年10月1日 ～平成30年9月30日	1,500,000円	一般財団法人 日本国際協力センター
馬場 卓也	「アフガニスタン国未来への架け橋・中核人 材育成プロジェクト」に係る2016年度広島 大学大学院国際協力研究科特別プログラム	平成28年10月13日 ～平成29年10月31日	7,500,000円	独立行政法人 国際協力機構

## 【受託研究】

研究代表者	研究課題	契約期間	契約金額	契約相手先
力石 真	ETC2.0プロープによる時間信頼性の影響要 素に関する研究	平成28年8月1日 ～平成29年1月30日	325,000円	株式会社長大

## 【奨学金寄附金】

研究者名	講座名	寄附金額	寄附者名
吉田 雄一郎	開発政策	500,000円	航空政策研究会 会長 杉山 武彦
中越 信和	開発技術	6,000,000円	株式会社建設環境研究所 代表取締役社長 富田 邦裕
山本 春行	開発技術	2,000,000円	山本春行（JICA 案件化調査業務）
山下 隆男	開発技術	4,320,000円	応用アール・エム・エス株式会社 代表取締役 山田 敏博
久保田 徹	開発技術	2,500,000円	ニチアス株式会社 研究開発本部長 米澤 昭一
深見 兼孝	教育文化	50,000円	公益財団法人佐藤陽国際奨学財団 代表理事 藤田 昌子
渡邊 園子		1,000,000円	公益信託富士フィルム・グリーンファンド 受託者 三井住友信託銀行 リテール受託業務部長 宮沢 次郎
別所 裕介		207,000円	別所裕介（公益財団法人日本科学協会）

[ 教員 Academic Staff ]

H28.10.1. 付け

採用 カロバーネットヨハン 助教

(Eメール) CARBONET, J.

A. P.

開発政策講座 D. D. P.

[ 教員 Academic Staff ]

H28.9.30. 付け

辞職 石原 正恵 講師

(R) ISHIHARA, M.

A. P.

開発技術講座 D. D. T.

(京都大学へ)

辞職 別所 裕介 研究員

(R) BESSHO, Y.

R.

平和共生講座 D. P. C.

(京都大学へ)

平成28年(2016年)

12月13日~12月20日

事前審査受付期間(対象者のみ)

D. 13 20, 2016

A.

平成29年(2017年)

1月23日~1月27日 願書受付期間

2月15日~2月16日 入学試験

2月23日 合格発表

J. 23 27, 2017 S.

開催日時：平成28年7月1日（金）18:10-19:40  
 開催場所：IDEC 大会議室  
 講師：在ボスニア・ヘルツェゴビナ日本大使館  
 専門調査員 山岸 良馬氏  
 参加人数：23名

第3回 国際協力キャリアセミナー「IDEC 卒の商社マン  
 2人と話そう」

開催日時：平成28年11月2日（水）18:10-19:40  
 開催場所：IDEC 大会議室  
 講師：三井物産 大木 健司氏  
 双日株式会社 三原 遼大氏  
 参加人数：24名

第4回 国際協力キャリアセミナー「国際コンサルタント  
 の仕事 - 失敗と絶望から勝ち取る成果」

開催日時：平成28年12月14日（水）18:10-19:40  
 開催場所：IDEC 大会議室  
 講師：カンボジア・パンニャサストラ大学  
 准教授 中川 香須美氏  
 参加人数：21名

その他 IDEC の動き  
 (2016年7月～12月)  
 Other Activities and Events at IDEC

インドネシア国人間居住・住宅研究所との部局間協定を  
 締結 (2016/07/01)  
 Agreement on Research Cooperation was  
 concluded with the Research Institute for Housing  
 and Human Settlements, Agency of Research and  
 Development, Ministry of Public Works and  
 Housing, The Republic of Indonesia (2016/07/01)

セマラン州立大学一行が表敬訪問 (2016/7/19)  
 IDEC received the visit by Dean of Faculty of  
 Mathematics and Natural Science, Semarang  
 State University (UNNES) (2016/7/19)

インドネシア教育大学一行が表敬訪問 (2016/7/20)  
 IDEC received the visit by the delegate of the  
 Universitas Pendidikan Indonesia (UPI) (2016/7/20)

ダブルディグリープログラム実施にかかるベトナム交通  
 運輸大学との部局間協定を締結 (2016/08/09)  
 Technical Academic Agreement on Collaboration  
 in the Double Doctoral Degree Program was  
 concluded with the University of Transport and  
 Communications, Socialist Republic of Vietnam  
 (2016/08/09)

モザンビーク教育大学一行が表敬訪問 (2016/11/8)  
 IDEC received the visit by Rector of Pedagogical  
 University of Mozambique (2016/11/8)

パティムラ大学との大学間協定を締結 (2016/11/30)  
 Hiroshima University have concluded an  
 International Agreement with Universitas  
 Pattimura, The Republic of Indonesia (2016/11/30)

ユダヤナ大学一行が表敬訪問 (2016/12/9)  
 IDEC received the visit by Vice Rector of  
 University of Udayana (2016/12/9)

メーファルアン大学との大学間協定を締結 (2016/12/13)  
 Hiroshima University have concluded an  
 International Agreement with Mae Fah Luang  
 University, Thailand (2016/12/13)

**IDEC 広報委員会 (2016 年度)**

IDEC Public Relations Committee 2016 ; 高橋与志 (委員長) TAKAHASHI, Yoshi (Chairperson)  
 チャン ダン スアン (副委員長) TRAN, Dang Xuan (Vice-Chair)  
 中矢礼美 (委員) (ニュースレター編集担当) NAKAYA, Ayami (Member) (Editor)  
 山根達郎 (委員) YAMANE, Tatsuo (Member) 福田勝文 (委員) FUKUDA, Katsufumi (Member)